双葉郡　（第七部）（磐城飛行場）

片寄洋一

双葉郡熊町村大字夫沢字長者ヵ原という海岸に近いやや台地になった荒地があった。

帝国陸軍部は飛行機の活用に目覚め 1935 年〔昭和 10 年〕熊谷陸軍飛行学校を創立、陸軍飛行隊の操縦士育成に本腰を入れた。

この熊谷飛行学校を中心として大刀洗飛行学校、白城子飛行学校、宇都宮飛行学校の 3 校を分校にし、飛行兵科幹部候補生、下士官候補生の育成にあたった。

昭和 12 年、盧溝橋事件以来中国大陸で戦火が拡大し、どこまで続くぬかるみぞ、といわれた位の戦線拡大に頭を悩ましていた陸軍はその頃やっと飛行機の有能性に着目し、その拡充に積極的になった。（陸軍は飛行機（陸軍飛行隊）、海軍は航空機（海軍航空隊）と呼称した）

長者ヵ原飛行場若しくは磐城飛行場に関する大半の資料は海軍航空隊所属と解説してあり、陸軍としてあるのは少数なので、防衛省資料保管室と戦史編纂室を訪ね資料を拝見し、かつ熊谷飛行隊戦友会に所属しており、元特攻隊員として磐城飛行場で訓練中に終戦になり、生き残った操縦士（陸軍少尉）の方を訪ねましたが、高齢のため記憶が薄れてしまっていましたが、戦友会の機関紙を拝見させてもらいました。